

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 231

2025・5・28

髪剃や一夜に金精て五月雨

—野沢凡兆—

春風を受けて揺れていた新緑が
その緑色を濃くしてきました
五月から六月へ
湿度が少しづつ増してゆく空気の中で
考えるのは
梅雨時の過ごし方、
その後にやってくる 今年も暑そうな
真夏の過ごし方・・・。

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 「間島君旌徳碑」「旧図書館」についての説明板が設置されました	・・・1
☆ 2024年度第4回図書館協議会を傍聴して	・・・2
☆ 街の本屋さんが結ぶご縁 東昌宏	・・・4
☆ 活字文化議員連盟と学校図書館議員連盟の合同総会に参加して	・・・5
☆ 松坡先生をめぐる人々 24 松社同人 加藤郁二 袴田潤一	・・・6
☆ 映画と本と図書館と 48 / 銀幕情報 田邊恵美	・・・7
☆ ファンタスティック☆ライブラリー・114 第1回実行委員会報告	・・・8
☆ 湘南邸園文化祭連絡協議会総会報告	・・・9
☆ ポラ協報告／協働推進室が発足しました／活動日誌	・・・10
☆ 事務局から	・・・10

「間島君旌徳碑」「旧図書館」についての説明板が設置されました



上：間島君旌徳碑(後方)と説明板
下：旧図書館(後方)と説明板

今小路の御成小学校冠木門とその右隣にある旧鎌倉図書館。丁度その真ん中
辺りには「間島君旌徳碑」が建てられていることをご存じでしょうか。

碑は、銀行家で歌人でもあった間島弟彦氏が鎌倉町立図書館建設等に貢献さ
れたことを称えるために、昭和 11 年 3 月に鎌倉町立図書館竣成を記念して鎌倉
町によって建てられたものです。

3月末、通り沿いに、説明板が設置されました。

昨年 3 月に旧図書館が国の登録有形文化財になったことを受け、TOTOMO は
同 4 月に市長面談を行い、「旧鎌倉図書館の一般公開と維持管理について」の要
望書を提出、その中で、旧図書館や旌徳碑について説明板を設置してほしいこと
も市に要望しました。要望は6月議会で諮られて承認され、設置が決まった、とい
う経緯があります。(この活動については 2024 年発行の会報 225 号 226 号で詳しく
報告しています。)

今小路の通りから旌徳碑は樹の陰に隠れて見えにくく、旧図書館(現在はおな
り子どもの家)も原則として関係者以外自由に立ち入ることはできないので、存在
をご存知ない方も多いかもしれません。2 つの説明板は柵の前の少し離れたところ
に並んで設置されています。お近くに行かれた際はぜひ併せてお読みください。

TOTOMO は、2011 年、『鎌倉図書館百年史』編集に会員が参加した際、そして
2014 年、取り壊しが決まっていた旧図書館の建物の保存を市に要望する活動
を始めた際に、間島弟彦氏の存在の大切さを深く心に刻みました。現在も「間島
弟彦・愛子夫妻 旌徳の会」として有志が学びを続けています。

・ ・ ・ ・ 2024年度第4回図書館協議会を傍聴して ・ ・ ・ ・

2025年3月12日に開催された図書館協議会を傍聴しましたので報告します。まず任期切れに伴い5人中3人の委員が変わりました。梶川悦子委員(市民委員・現役図書館司書)、小澤由香委員(家庭教育関係・子育て分野の市民団体代表)、小澤恵委員(学識経験者・大学図書館課長)が新たな委員となり、千錫烈委員(社会教育関係・大学教授)が新たに委員長になりました。高橋岐明委員(学校教育関係・小学校長)は公務で欠席でした。今回の図書館協議会は議題が多く(報告事項6件、協議事項4件、諮問1件)、案件の重要性を反映して配布された資料も分厚いものでした。

◎新教育大綱のコンセプトは「炭火」

最初に教育委員会の次長兼総務課担当課長より4月に策定予定の「新教育大綱」の説明がありました(すでに市のホームページに掲載されているので参照してください)。図書館との関連で言うと「社会の変化する速度が大きくなっている、それに対応するには学校を卒業しても学び続けなくてはならない、しかも学習者中心の学びが求められる、その学びは自らの中で炎をともし続ける「炭火」のようなものとしてとらえられる、そこで図書館が学びの場として重要になってくる」というわけです。したがって図書館のサービス計画も他の教育セッションの計画との連携性が求められるとのことでした。新たな図書館サービス計画の策定については今回の諮問事項となっており、今後どのように審議され、どんな内容になるのか注目していきたいと考えます。

◎市史編さんは「続編」でいいのか

次に議会報告ですが、昨年の12月議会では高野洋一議員から「市庁舎移転に伴う図書館施設整備に関して令和6年度から図書館協議会で報告事項から協議事項になったが、どんな協議をし、併せてこの件につき答申や意見書を出すのか」という質問があり、教育文化財部長から「新深沢図書館に必要な機能や共用スペースの活用についてなど5回にわたって協議してきたが、答申や意見書までは考えていない」と回答、「では市側にどうやって示すのか」という質問に「運営体制を含めこれからの図書館の望ましい在り方について諮問する予定である」と答弁されたとのことでした。

今年の2月議会では神奈川ネットワーク運動・鎌倉からの代表質問で「新深沢図書館についてどのように取り組み、新年度の基本設計にどう関わるのか」と問われ、教育長は「新深沢図書館は子ども読書推進の拠点館なので共用スペース、静読室、児童コーナーなどについて具体的に提案している」と答弁し「市史編さん事業をどう進めていくのか」という質問には「すでに刊行された市史の続編を編さんする予定」と答えています。TOTOMOは2022年11月に市史編さんについて要望書を市に提出し翌年の2月議会には同趣旨の陳情書を提出して全議員の賛同を得て採択されました。そのときの意見陳述で述べたように市史の考古編が発刊されたのは1959年で、それから60年以上もたっており、新たに発見された歴史的な事実はかなり多く、続編ではなく全面改訂を望んでいます。まずは市史編さん委員会を立ち上げ、そこで決められた編集方針を尊重すべきだと思います。

続いて「子ども読書計画」「図書館情報システム変更」「新年度予算」等についての報告があり了承されました。

◎協議のための資料は事前に

続いて協議事項に入り「第4次サービス計画の年次評価について」は説明のみで、「次回の協議会で協議する、コメントがあれば3月28日までにメールで送ってほしい」と述べられました。関連して館長からは資料を当日に見てもらふことになったことを詫げる言葉がありました。先に触れたように資料は大部で当日いきなり見せられても質問や意見は出しづらい、しかも3人の委員は新メンバーなのでより難しかったと推測します。協議事項なのに協議になりにくいようでは何のための協議会なのかということになってしまいますので、準備作業は大変でしょうが、委員には事前に送付してほしいと思います。

次の議題の「図書館施設整備について」と「施設整備に向け図書館でまとめた意見の提出について」は関連するので併せて説明されました。前者については、これまで8回にわたって協議してきた、4回目より報告事項から協議事項になり、新深沢図書館が820㎡から530㎡に減るのはおかしい、移転跡地の新中央図書館は改築ではなく新築にすべき、学校図書館との連携や子供の居場所についても触れるべき、現場の職員の意見も十分に取入れてほしい、その他電子書籍、読書バリアフリーなどについても意見が出た、これらを踏まえて新深沢図書館の各機能についてコーナー別に面積を含め A3サイズの表にまとめたもの(後者の資料)を市のまちづくり担当や設計会社に送り、2週間に1回の全庁的な会議にも出席して進捗状況を確認している、そこに反映されていないものも含め設計業者とのやり取りもしているとのことでした。

◎静読室の面積はゼロなの？

委員からはおはなし会のスペース、市民と交流できるスペースについて質問があり、前者については現在より1.5倍の広さで考えている、後者については新庁舎自体が市民の集える施設というコンセプトがあるので、それを踏まえて図書館の視点から意見を出している、教育大綱とどう紐づけるのかという質問には図書館が長期に学習していける場所となるようアイデアを出し意見もいただいて実現したい、ゾーニングについても家族や友人同士で声を出せる場所と読書や学習に集中できる静読室を分けるなどの工夫もしていきたいという回答がありました。しかし前述したA3サイズの表を見ると、なぜか静読室の面積はゼロになっています。仕切られた空間なのに面積が無いというのはどういうことなのでしょうか。合計面積も現深沢図書館の面積と同じ820㎡となっていて無理やり合わせた感があります。ゾーニングについては図書館が新庁舎の中にどう配置されるのか、イベントを開催されるスペースはあるのかという質問があり、これについては図書館を1階のメインとすること^でほぼ固まっている、グループ学習室は図書館内に想定している、キッズスペースは図書館とは別に用意される予定、講座などを開く場合は料金の問題もあるが学習センターのスペースを活用できるようにしたいとのことでした。

◎「図書館のあり方」の協議継続、「第5次サービス計画」の諮問

協議事項の最後の議題「これからの図書館のあり方について」は、昨年度の第1回図書館協議会で6本の柱を立て、そのうちの「読書バリアフリー」「新図書館の機能」「電子書籍」については協議済みで、残る「地域館のあり方」「運営体制」「蔵書数」については引き続き協議し、「第5次サービス計画」の答申を得た後に改めて6項目からなる「図書館のあり方」について諮問していきたいという提案でした。とくに意見はなく了承されました。

最後に「第5次鎌倉市図書館サービス計画の諮問について」が説明されました。5月に開催予定の次回の図書館協議会で意見をもらい、8月の協議会で素案に近いものをまとめ、協議を重ねたうえで答申をいただきたい、また進捗状況にあわせて市民からの意見をいただくことも考えている、計画の位置づけがこれまでと異なり、教育大綱に基づいた教育振興基本計画のもとに他の教育セクションと並ぶ図書館サービス計画となる、内容は図書館ビジョンを踏まえた理念的なものになり、その下に具体的な活動プランがつけられる、基本方針は「読書バリアフリーサービスの充実」「知識・情報のハブとなる図書館」「鎌倉の魅力を集積し発信する図書館」の3つになるということでした。委員からは読書バリアフリーについて身体的障害だけでなく様々な理由で図書館に行きづらい人を含む広い範囲でとらえてほしいという意見がありました。これについて図書館からは「基本方針」に書いたように幅広い視点で考えている、また教育大綱や教育振興基本計画に位置付けられることで、より実現性の高いものになるととらえていると回答されました。最後に諮問文が読み上げられ委員長に手交されて図書館協議会は終了しました。「基本方針」の中には「司書職の継続的な採用を目指す」という一文もあり、これがより確実に実施されるようになればいいと思いました。報告は以上ですが、傍聴していて委員の発言が聞き取りにくいなどのことがあり、マイクを使っただけだと有難いと感じたことを付け加えます。

(和田)

.....

不定期の短期連載、「外国の図書館や本屋さん、出版状況など、本にまつわるレポート」の第2回。
今回は韓国の本屋さんとお話を寄せていただきました。

街の本屋さんが結ぶご縁

20年前、鎌倉に越して来たら、たらば書房があり、ほっとしました。20年暮らした東京・杉並でも駅前にいい本屋さんがあり、お風呂屋さんとともにお世話になりました。52歳で中学教師を辞め、買う本より図書館で借りて読む本が多くなりましたが、私のリクエスト本が町の本屋さんに発注されるのを期待しています。10年前に韓国語を始め、原書をどう入手するかが課題になった時、ちょうど神保町にCHEKCCORIが開店し助かりましたが、手数料、送料もかかるので、韓国に行く時は大きなザックにいっぱい本を買って来ました。ソウルの教保文庫など大型書店に行くのが効率的ではありませんでした。

昨年3月、済州島への自転車旅行は、本屋さん巡りを兼ねました。済州島には村（マウル）の中に新しく開店した本屋さんが多いのです。旅行のテーマが4・3で、4・3はマウルの災厄だったので、そこで店を出す本屋さんがいちばんの道しるべになります。『小さな本屋は力持ち』（チャン・ジウン/未訳）に紹介されている本屋さん20軒に、私がなぜ済州島に行くのか、今までどのように本を読んできたのか説明し、本の推薦を依頼する手紙を送ると、3軒から待ってますよというお返事を頂きました。そのうち「オットン・パラム」は、推薦本を用意してくれただけでなく、私の手紙をソウルで独立出版社を営む友人に転送して文通の仲介もして下さいました。その夏正（ハ・ジョン）さんは、先月、妻と結婚40周年記念に慶尚道を旅した時、慶州に会いに来てくれました。当地の「誰かさんの本屋」さんを交えて、独立出版社と町の本屋さんがブック・フェア、読書会などを通して協働しているお話も伺いました。お客さんは若い女性が7、8割だそうで、尹大統領の「非常戒厳」を覆し、弾劾を勝ち取った主力でもあります。

翌日、大邱では、CHEKCCORIの金承福さんが『世界』の連載で紹介された「旅行者の本」にブック・ステイしました。日本ではTRCマークの寡占などによって街の本屋さんの閉店が進んでいると、代表のパク・ジュヨンさんに説明すると、韓国では文在寅政権下で公共図書館が地元の本屋に発注するよう法制化されたと答えられました。尹大統領はこういう分野に関心がなく、改悪されなかったのは幸いだったと笑いあいました。あらかじめお送りしておいた私の済州島旅行記『島を読む』が『小さな本屋は力持ち』を表紙写真とともに紹介していることについて「この本、私が編集したので、うれしかったです」と言って頂きました。奥付を見ると、確かに名前があります。縁は巡る。これからも町の本屋さんが結ぶありがたいご縁を頂く旅を続けていきたいと思います。



（東 昌宏）



2月から、東さんの提案で岩波書店の月刊誌『世界』を読む読書会が始まりました。

今回は、6月5日(木)14時～16時 NPOセンター鎌倉で、『世界』6月号を読みます。皆様のご参加をお待ちしています。

活字文化議員連盟と学校図書館議員連盟の合同総会に参加して

4月24日午後、参議院議員会館1階講堂にて標記の合同総会が行われました。超党派で構成される両議連所属の衆参議員は、図書館友の会全国連絡会(図友連)が毎年国へ要望をあげていく際に支援をお願いしている皆さんです。今回の合同総会開催にあたり、両議連の事務局(笠浩史議員事務所)より「学校図書館整備推進会議 図書館改革プロジェクト(PT)」に協力の依頼があり、図友連は同PTの運営スタッフとして4名が参加してきました。

当日は議員を含めて240名の参加者で会場は満員。熱気あふれる中、活字文化議連の上川陽子会長、学校図書館議連の松野博一会長と河村建夫顧問のご挨拶の後、笠浩史事務局長より両議連のこれまでの取り組みについて説明がありました。

続いて、(株)読売新聞グループ本社と(株)講談社が本年2月7日に発表した「書店活性化に向けた共同提言」の報告が行われました。まず(株)読売新聞グループ本社の山口寿一社長より、「豊かな人間性を養い、自由で多様性のある健全な民主主義社会を発展させるためには活字文化や読書活動が欠かせない。にもかかわらずその普及や推進のために不可欠な書店が一軒も無い自治体が全体の4分の1に上っている現状は危機的でその対策は喫緊の課題である」とのお話がありました。さらに(株)講談社の野間省伸社長が、電波を使ったRFIDタグの活用で期待できる、出版社、書店、読者其々の利点や書籍流通フロー上のメリットなどについて、資料を添えて説明されました。

その後、文部科学省の中原裕彦文化庁文化戦略官と経済産業省の南亮商務・サービス審議官から、それぞれ大部な資料をもとにした各省庁の取り組みが報告されました。

参加者の多くは出版・書店関係者であり図書館に関する発言は多くありませんでしたが、「書店活性化に向けた共同提言」には、図書館に言及した次のような項目が見られました。

- ・書店減少に加え図書館の資料費も減少している。図書館と書店が連携して地域の文化拠点を守る必要がある。
- ・図書館に本を納入するのに値引きや装備費負担を求められることがあり、地元書店が納入しづらくなっている。地域にあった納入方式を検討していくべき。
- ・図書館で購入するベストセラーや複本の購入については、書店と共存できるルール作りが必要。

(ただし、当日配布された経産省の書店振興PTの報告書には、「必ずしも書店の売り上げへの影響はないとの意見もある」と両論併記されています)

また、経産省、文科省からの配布資料には、次のような事例が共通して紹介されていました。

- ・図書館で購入する本は地元書店からとする。(例 鳥取県・白河市など)
- ・地元書店から購入した本を福祉施設と連携して装備する。(例 幕別町・瀬戸市)
- ・予約した本の受け取りを書店でできるようにする。(例 町田市)

さらに、共同提言では、諸外国の取り組みとしてフランスやドイツが実施する「カルチャー・パス」制度が紹介され、この制度が若者の文化活動支援となり書籍購入や読書文化を下支えしていることがわかります。韓国では、地域書店の活性化支援を出版文化産業振興法に盛り込むことで、減少傾向にあった書店が増加に転じた旨の記述もあり本会報4ページの掲載記事「街の本屋さんが結ぶご縁」につながる動きと実感しました。

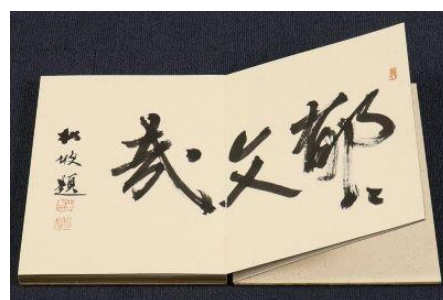
鎌倉でもこの20年の間に松林堂書店、邦栄堂書店、四季書林、藝林荘など、長年にわたって市民に親しまれてきた書店や古書店が店を閉じました。図書館は民主主義の砦、とも言われます。活字文化や読書活動が息づくまちづくりを進めていくために、図書館を友とする協会としては、まずは地元の書店と図書館・学校図書館の連携がより深められるような動きをつくっていきたいと思ったことでした。

(阿曾)

『文哉帖』と題された書画帖があります。巻頭に松坡先生の筆で「郁々文哉」の題辞、次が松坡先生の題詩二首、以下松社同人 10 人の書画が続きます。松坡先生の題詩の款記には「乙亥の春、松社同人 加藤梅塢君宅に会す。君、堂号を余に求む。乃ち、命じて文哉書屋と曰う。席上分韻し、五律二篇を得たり。」(原漢文)とあります。乙亥は昭和 10 (1935) 年、加藤梅塢宅は『漢詩春秋』第 19 卷第 3 号に掲載されている雅集記事に「鎌倉大町藏屋敷」「鎌倉幕府の頃問注所が附近に在り御成小路の稱のあり」とあり、松坡先生の題詩第一首に「枕谿明素梅(谿に枕み 素梅明らかなり)」、釜屋忠道の詩に「秋霜橋畔竹為門(秋霜 橋畔 竹門を為す)」とあることから、佐助川の裁許橋の傍らにあったことがわかります。この書画帖は、昭和 10 年 2 月に梅塢宅での松社の雅集の折、邸宅が松坡先生によって命名されたことを記念して同人によって制作されたものだということになります。

さて、文哉書屋主人加藤梅塢はどんな人物でしょうか。加藤梅塢、本名郁二は鎌倉郡上倉田村(現横浜市戸塚区上倉田町)の素封家小串薫一郎の次男として明治 12 (1879) 年に生まれました。横浜商業学校卒業後、一時、志願して陸軍軍人となります。明治 36 (1903) 年に加藤清樹の養子となり、加藤清樹商店に勤務します。その間、日露戦争で招集され旅順で負傷しています。その後、日本漁業や千島漁業の社長・重役を務めました。昭和 5 (1930) 年時点での住所が横浜北仲通りとあり(『神奈川縣紳士録』横浜市誌編纂所 1930)、大町の宅は別荘だったのでしょう。

昭和 15 (1940) 年、松坡先生が文哉書屋で詠んだ詩に「五十學詩(五十にして詩を学ぶ)」とありますので、梅塢が漢詩を詠み始めたのは



『文哉帖』題辞(個人蔵)

昭和に入ってからのことだと思われる、その頃に松社での活動も始まったのではないのでしょうか。

さて、「文哉書屋」という堂号ですが、『文哉帖』巻頭の題に「郁々文哉」とあるように、『論語』八佾の「周監於二代、郁郁乎文哉(周は二代に監みて、郁郁乎として文なる哉)」に因り、文化または文章などが格調高く盛んであることを意味します。梅塢の本名である「郁二」の「郁」も含まれています。詩文などの文化が梅塢邸を中心に盛んになることを願っての命名です。

文哉書屋での雅集のひと月ほど後に詠まれた松坡先生の詩のタイトルは「贈梅塢道人 君 夙主宰海産物貿易商會、今茲紀元節、以實業功勞、特蒙旌表賜銀杯(梅塢道人に贈る 君、夙に海産物貿易商會を主宰し、今茲紀元節、実業の功勞を以て、特に旌表を蒙り、銀杯を賜る)」というもので、梅塢の実業界での功績が高く評価されたことがわかります。

最後に、『文哉帖』の巻末に揮毫された梅塢自身の詩。「霽日和風春動庭 梅花的樂白於雲 文哉書屋盍簪好 如水幽香流入櫺」霽日は風に和し、春は庭に動く。梅花的樂として雲より白し。文哉書屋、盍簪に好く、水の如き幽香、流れて櫺に入る。霽は晴れ、的樂はくつきりと白く輝くさま、盍簪は友人の集まり、幽香は清潔な香りをいいます。櫺は連子窓。「水の如き幽香」が水の如くに淡い交わりの松社同人を意味するのは言うまでもありません。



第48回

映画と本と図書館と

『人生フルーツ』

(日本/2017年 公開)

(東海テレビ放送 制作・配給／監督：伏原健之)

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

『作られた時より、さらに新しく感じる映画』

和食の料理人の最上位といえは～板前。“まな板の前に立つ人”の意味通り、最良の食材を選び研ぎ上げた包丁で切り美しく盛り付ける技こそ、日本料理の中で最も難易度が高いという事か。すぐれたドキュメンタリー映像作家とは、さながら板前のごとし。

この製作者阿武野勝彦さんは、東海テレビのアナウンサーから記者を経てドキュメンタリー製作者となり、昨年退社。その間制作したドキュメンタリー番組のうち何本もが映画版として劇場公開されています。その中で日本のドキュメンタリー映画興行収入の第一位を今も独走しているのがこの作品。ヒット作ながら今時稀有な“DVD化はしない”“配信には載せない”というポリシーを貫いています。単館上映など見つけたら、即、GO！ちなみに私は、長谷の収玄寺さんのお隣奥に出来た『古民家ゆりいか』で開催されている『鎌倉シネマ』という上映会で見ました。

常に“自分の流儀”を貫いてきた建築家と、造り酒屋の娘がお見合いで結婚して紡いだ半世紀超の暮らしをカメラは綴っていきます。誰もが否応なく長生きをする可能性（あるいはリスク？）が高い今の日本で、自分のスタイルでプライドを持って最後の日まで暮らせただけで、ある意味現代のおとぎ話。また、食料自給率が低い今の日本で、庭の畑や木々の野菜果実を収穫して食べる究極の地産地消は、この作品が世に出て8年が過ぎた今も更に憧れのライフスタイルかもしれません。

この御夫妻の本は翻訳版もあり、著者サイン会の台湾ロケはこの映画の大事なポイントです！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

※この映画は、2016年東海テレビ放送にて放映後、映画版として公開された作品です。

テレビ放映時タイトル『人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり』

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081）於：鎌倉芸術館小ホール

6/12（木）『パリのちいさなオーケストラ』

6/26（木）『花束』

☆上映後に監督 サヘル・ローズさんの舞台挨拶があります

舞台挨拶：14時50分～（開場：12時30分 開映：13時 終映：14時40分）

入場料金 1500円均一

7/10（木）『あの歌を憶えている』

7/24（木）『イル・ポストイーノ』デジタル・リマスター・4Kで甦る永遠の名作！

◎前売り券・シニア 1000円（当日券：1300円）◎上映時間①11:00～ ②14:00～

☆6/26 上映『花束』入場料金は 1500円均一です

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へ

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます。



ファンタスティック☆ライブラリー・114 第1回実行委員会報告

4月17日（木）14時～15時半 於：中央図書館多目的室

令和7年度第1回のファンタスティック☆ライブラリーの実行委員会が、3団体4名と図書館員6名計10名の参加で行われ、以下のような内容を話し合いました。

- ・開催日程については昨年度からの検討案件で、各団体で話し合ってきた結果をまとめ、12月6日（土）、7日（日）に中央図書館での開催がよいという事になり、図書館館長会議で検討していただくことになりました。
- ・土日の開催は、開館中になるので図書館側からは音の出る催しや、2階の利用は難しいとのこと。TOTOMOからは、F☆Lを開催中という事を利用者に周知し、少々の音は容認していただいてはどうかと申し入れましたが、静音環境を望む利用者も多いという事で難しそうです。
- ・前回3階のパネル展示へ利用者の誘導が難しかったので、階段を利用して展示し（パネルは小さめのもの）誘導したらどうかという案が出ました。
- ・新しい団体の参加は、今年度も難しいが、現在参加している団体と一緒にやる形なら受け入れ可能。おはなしひこうせんは「人形劇団いちばん星」さんに一緒に参加していただくことを承いただきました。
- ・今後のスケジュールとして、各団体の発表テーマは8月中旬までに決めて図書館へ連絡。広報かまくらには、11月号に掲載、鎌倉萌は、11月・12月号へ掲載する予定で、広報原稿は8月中旬に提出。
- ・その他、市史編さんや図書館振興基金について意見交換をしました。

次回の実行委員会は、6月19日（木）14時～15時半、中央図書館多目的室で行う予定です。

TOTOMOからは、阿曾（松坡文庫研究会兼務）、阿部、杉崎が参加しました。（杉崎）

湘南邸園文化祭連絡協議会 総会報告

5月13日（火）14:00～15:30 対面オンライン併用

正会員41団体のうち出席20団体、委任状12団体、総会定員数1/2以上により成立。

昨年度事業報告、会計報告に引き続き今年度予算案、事業計画案が提案され可決されました。今年度のガイドブックは冊子ボリュームを縮小し郵送代も抑えたイベントカレンダーに変更されます。HPもリニューアルされるに伴い、QRコードなど入れアクセスしやすいように考慮してほしい等要望が出ました。

各団体のイベントに加え、湘南邸園文化祭20周年記念特別企画「リレー講座・つながる神奈川の邸園文化」講演＋見学ツアーを計画しています。本協議会と神奈川県が主催し、企画ごとに地元市民団体や建築士会などが共催する形をとります。記録作成には國學院大學観光まちづくり学部学生有志が協力してください。

会期中（9月～12月）各月2回計8回の講座と見学ツアーが予定されていますが、第1回と最終回（第8回）は鎌倉で開催されます。第1回は9月6日（土）に「鎌倉の庭から辿る邸園文化」と題して建長寺での講演後、近隣の見学ツアーを行います。第8回は12月20日（土）に「神奈川の戦後建築とその保存活用・神奈川県立近代美術館」と題し、大路ビルでの講演後に鎌倉文華館鶴岡ミュージアムを見学します。普段は入ることの出来ない現地ツアーも同時に開催されて今から楽しみなイベントになりそうです。詳細はまた追ってご案内します。黒瀬、阿部がオンラインで出席しました。（阿部）

ボランティア連絡協議会報告

4月17日(木)に今年度最初の委員会を開催しました。2024年度は役員1名が欠員となっていました。引き受けてくださる方があり、今年度新たに選任されました。その他の総会資料の審議も行いました。5月の総会は書面表決となりましたが、事業報告、決算報告、事業計画案、予算案とも無事承認されました。6月19日(木)にはミニ研修として地震発生時の避難について考えます。福祉センターからの避難経路確認も行いますので、ぜひご参加ください。

一方、ボランティア倶楽部は毎回参加者が15～20名となり、楽しく作業を行っています。今年も4月から鶴岡八幡宮の七夕飾り製作を始めました。ボランティア倶楽部にはどなたでも参加できます。活動日当日にふらりといらしても大丈夫です。通常は最終木曜日午後ですが、七夕飾り製作や福祉まつり準備の時などは活動日を増やしています。詳しくは黒瀬までお問合せください。(黒瀬)

協働推進室が発足しました

この4月から、鎌倉市市民活動センター運営会議によるNP0センター第6期指定管理が始まりました。今期業務の大きな柱のひとつが市民活動コーディネート業務となりますが、それを推進するための協働推進室が発足しました。構成メンバーは運営会議理事、スタッフのほか他の支援組織で活動する人や市民団体で活動する人などからなる20名ほどです。これに伴って従来の協働事業推進部会は解散し、一部メンバーがこの推進室に参加することとなりました。

4月23日(水)にはNPOセンターにて17:30から第1回協働推進室会議が行われ、出席しました。初めての顔合わせということで自己紹介と大卒の説明にとどまり、具体的な活動までは話が及ばず、「協働」にこれまで関わっていなかった方々からは戸惑う声があがりました。未だ手探りの部分が多い印象でしたが、まだ発足したばかり。様々な立場の方々が一同に会することによってより活発な意見交換がなされ、市民活動の充実につながることを期待しています。(黒瀬)

TOTOMO活動日誌 (3/27~5/28)

3/27	鎌倉から『世界』を読む会	4/25	Unileaf お手伝い
3/27	おはなしひこうせん勉強会	4/25	図書館友の会全国連絡会神奈川交流会
3/28	読書会	4/30	鎌倉・文化の森瀧下氏の旧前田邸について 説明会
4/2	これからの鎌倉市政を考える市民の会市川 氏の市役所移転についての説明会	5/1	鎌倉から『世界』を読む会
4/2	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会	5/8	Unileaf お手伝い
4/7	Unileaf お手伝い	5/13	湘南邸園文化祭連絡協議会総会
4/17	おはなしひこうせん勉強会	5/15	おはなしひこうせん勉強会
4/17	ボランティア連絡協議会委員会出席	5/22	子育てサロン Palette おはなし会
4/17	F☆L実行委員会	5/23	読書会
4/18	間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会臨時例会	5/26	図書館友の会全国連絡会総会
4/21	図書館問題研究会神奈川支部学習会参加	5/27, 28	図書館友の会全国連絡会要請行動
4/23	協働推進室第1回会議出席	4/3、4/10、5/8	ボランティア連絡協議会役員会 ロビー活動 随時
4/24	活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟 合同総会参加		定例会9回（4/2、9、16、23、30、5/7、4、21、28）

TOTOMO



COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ

梅雨時の鎌倉を彩る紫陽花が咲き始めました。雨の季節、紫陽花見物もいいけれど
お出かけはやめにしてゆっくり本を読む時間もよいものです。

鎌倉から『世界』を読む会

毎月8日に発売される岩波書店発行の月刊誌『世界』を各自読んで、月末または翌月初めに読書会を開催します。会場はいずれも、NPOセンター鎌倉です。

第4回(6月号): 6月 5日(木) 14時~16時

第5回(7月号): 6月26日(木) 14時~16時

第6回(8月号): 7月31日(木) 14時~16時

お問い合わせは、東(TEL 0467-46-5548)まで。

おはなしひこうせん勉強会

日 時: 6月19日(木) 10時~12時 場 所: 福祉センター

テーマ: 「好きなもの」自分が好きなもの、絵本の主人公が好きなもの、愛するものや推しのものなどの絵本や紙芝居をご紹介ください。F☆Lのテーマにしようと考えています。
お問い合わせは、黒瀬(Tel/Fax 0467-22-8545)まで。

読書会

日 時: 7月18日(金) 11時~12時半 場 所: NPOセンター鎌倉

テーマ本: 岡真理・小山哲・藤原辰史著『中学生から知りたい パレスチナのこと』(ミシマ社)
辻村深月著『ツナグ』(新潮文庫) 皆さまのご参加お待ちしております。
お問い合わせは、杉崎(Tel/Fax 0467-41-4956)まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時: 6月4日(水) 13時半~16時半 場 所: NPOセンター鎌倉

お問い合わせは、鈴木(Tel 090-4728-5242)まで。

☆図書館友の会全国連絡会

5月26日に総会、交流会、懇親会を実施しました。翌27日より文科省、総務省、厚労省、経産省へ要望書を持参します。併せて衆参議員への要請行動を行います。

お問い合わせは、阿曾(Tel/Fax: 0467-45-5731)まで。



編集後記 * * * * *

☆早くもF☆Lの実行委員会が始まり、イベント開催に向けてひこうせんでも話し合いをしています。誰でも楽しめるF☆Lになるように知恵を絞ります。(A.S)

☆5月13日から順次行われていた鎌倉市図書館の整理休館が、中央図書館の6月1日で全館終了しました。何か変わったかな?と思うと、何となく図書館へ行くのが楽しみ。(M.S)

題字・巻末カット: 小島寅雄

図書館とともだち・鎌倉(代表: 水岡やす子) 編集: 阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

事務局: 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬)

TEL/FAX 0467-22-8545

H P: <https://totomo.sakura.ne.jp>

E-mail: toshokantomodachi@gmail.com

2025年5月28日発行

